

柳原自治会自主防災・防犯組織（新潟県）

自治会の概要

柳原自治会自主防災・防犯組織の高谷です。よろしくお願いします。

自治会が発足して 29 年と歴史の浅い町内です。世帯数は、平成 24 年 3 月現在で 940 世帯、人口は 2,714 人で、男性が 1,295 人、女性 1,419 人の構成です。柳原自治会は JR 白新線西側の住宅地です。柳原 1 丁目から 7 丁目をつつにまとめて自治会をなしています。人口の内訳としては、50～64 歳が 675 人と最も多く、地域活動の中心的役割を担っております。また、0～19 歳が 501 人と、比較的バランスのとれた年齢構成になっています。



柳原自主防災・防犯組織は、地域住民の自主的な活動を通して、特に災害や犯罪被害の予防を図り、「安全で安心な住みよい街」を目的として、自治会から平成 18 年 11 月に独立し、72 名で活動を開始いたしました。活動には、小学生から高齢者まで幅広い年齢層を取り込み、防犯活動のみならず、学童・高齢者の交通事故防止活動や環境美化活動、そして地域の絆を深めるための町内の夏祭りなどの開催に力を注いでおります。組織の機能を高めるために、また、多事多難な社会情勢を踏まえ、警察や学校、行政機関とも常に連絡を密にしつつ、専門的な知識の研修や情報収集に努め、それらを地域住民へ還元する取組も行ってしております。犯罪は、「犯罪を行おうとする者の存在」と「監視者の不在」「適当な犯行対象の存在」の3つの条件が揃う中で発生すると言われます。このことを踏まえ、防犯活動の内容として、①防犯パトロール、②犯罪情報の共有、③環境美化活動、④地域安全マップづくり、⑤交通安全活動の5つを重点に取り組んでおります。

この表は、平成 23 年度の「交通安全・防犯活動」の実績表です。小中学生全登校日の「交通事故防止活動」と、「通学路や公園での見守り活動」を行っています。また、「夜間防犯パトロール」では、声かけ運動と不法投棄ゴミの回収、防犯灯 256 基の球切れチェックなども同時に行っています。活動の延べ日数は 245 日で、延べ人数は 1,661 人です。

団体の概要～組織図～



団体の特長 警察・学校・行政と連携を強める



活動内容	
防犯パトロール	
犯罪情報の共有	
環境美化活動	
地域安全マップづくり	
交通安全活動	

23年度交通安全・防犯活動実績			
	登校時交通安全指導	下校時学童見守り(毎週金曜日)	夜間防犯パトロール(毎週金曜日)
活動日数	204	20	21
延べ人数	1150	180	331
内容	町内3交差点及び踏切等	不審者対策として通学路・公園等	「フクロウ隊」3班編成、町内全域

夜間防犯パトロール

毎週金曜日の夜間、柳原地区住宅街の道路を3班編成で約2時間かけて巡回する防犯活動を行っています。犯罪を生み出さない環境づくりのため、特に公園や細い道などを重点的に巡回し、普段見かけない車や人がいないかなど、監視を行いながら、また、防犯灯の球切れや危険箇所の把握など、安全確保に努めています。また、パトロール中は一人暮らしの家の様子を見たり、行き交う方には積極的に声を掛けるなど、地域住民との絆を大切にしています。年に数回は、管轄の新潟北警察署や新潟市北区役所に参加を求め、効果的なパトロール手法を学びながら情報交換を行っております。グリーンのベストは見守り隊の服装です。いま着ています朱のベストは、夜間パトロールのメンバーの服装です。年に数回、警察官が入って一緒にパトロールしています。また、豊栄駅の巡回の様子です。



犯罪情報の共有

地域内で、不審者による子どもに対する声かけ事案や空き巣事件などが発生した場合は、警察や学校から必要な情報提供を受けて、発生概要のチラシを作成して、直ちに全世帯に配布し、犯罪情報を地域全体で共有するように努めています。このチラシは県警から提供されたもので、県下犯罪発生状況に合わせ随時全世帯に配布し、注意喚起を行っております。また、不審者情報など他地域で発生した事案もニュースなどに併せて地域にお配りし、情報の共有化を図っています。

環境美化活動

「割れ窓理論」によれば、「手入れの行き届いた地域には犯罪者が寄り付かない」ということが証明されております。きれいなまちづくりを目指して、年に3回、「町内一斉清掃日」を設け、自治会や子ども会育成会、老人クラブと共同で、町内の道路や公園の清掃、除草を実施しております。特徴的な取組としては、柳原地内の県道が「新潟市フラワーロード」の指定を受けたことから、住民の心を和ませる花壇を多数整備し、四季の花を植栽し、「犯罪を生まない環境づくり」を行っています。また、毎年6月、地元の市立光晴中学校が実施する「地域貢献活動」と連携し、中学生と一緒に幹線道路や高速道路・側道の清掃や花壇整備も行っています。

環境美化活動(自主防)



地域安全マップづくり

地域安全マップづくり(1)



地域安全マップづくり(2)



犯罪者は、「知らない人」だけでなく、ときには「顔見知りの人」でも危ない。となれば、子どもたちは危険から逃れる術を身につけなければなりません。「逃げる・避ける・叫ぶ」など、危険を回避する方法を普段から学んでおく必要があります。

安全マップづくりの目的は、住民の安全意識を高めるために、家庭での親子で語り合う安全教育資料の必要性のために、子どもたち自らが犯罪から逃れる回避能力を養う必要性のために、防犯環境の改善や整備のためにも大切な活動と考えています。

効果として考えられることは、①犯罪被害に遭わないための回避能力が身に付くこと。②自分の目で、耳で確認する過程で地域への愛着心が芽生えます。③住民と友達とのコミュニケーション能力を向上させるとともに、その結果、④地域の大人たちを動か

安全マップを作った皆さん(小学校)



す力に発展することが期待されます。

このような観点から、柳原自主防災・防犯組織指導の下、平成 19 年に柳原地内の子どもたちを対象に、「柳原安全マップづくり」を実施いたしました。このことが学校関係者に伝わり、その翌年から対象者を拡大して、市立葛塚小学校5年生全員が参加する、「葛塚小学校・地域安全マップづくり」を地域・学校・警察が一体となって取り組んでいます。

交通安全活動

町内の通学路には交差点が4か所と JR の踏切があり、小中学生の登下校時に交通安全の確保に努めています。特徴といたしましては、全登校日に常時5名で交通指導を実施していることと、あいさつ運動も兼ねて、朝は「おはようございます」、下校時は「ただいま、お帰りなさい」と、お互いに挨拶を交わし、子供たちとの絆づくりにも努めています。

心の健康講座～地域住民が支え合える環境づくり

長い人生の中でだれもが抱える様々な問題に直面したときの、ストレスやこころの病気が原因での不幸な事件や事故が増加しています。一人一人がかけがえない人であるならば、うつ病や認知症などの知識や対処法、予防法を学び、理解することが大切であり、また患者や家族が孤立しないように、地域住民がお互いに支え合える環境づくりを行うことが必要です。柳原自主防災・防犯組織では、民生委員や老人クラブと協力し、一昨年から精神科病院・恵生会南浜病院と連携し、年間3回シリーズで心の健康講座を開催しています。



メッセージ

犯罪者は常に犯行の機会を狙っています。我々住民が見えない犯罪者に対抗する手段として、見えるかたちで防犯活動を積み重ねていくことが大切です。目に見える活動とは、大きく分けて2つあります。それは、防犯環境の整備と防犯活動の粘り強い継続です。この両輪がしっかり機能することによって、犯行の機会を減少させることができます。

防犯環境の整備とは、街がきれい、明るい状態が維持されていることだと考えています。防犯灯が設置され、その役割を十分果たしているかなど、住民の日常的な管理が地域の隅々まで行き届いているかが、犯罪抑止の大きな分かれ目と考えます。言い換えれば、「街の変化は見逃さないぞ」という、住民の目線、監視力を強めることが、結果的に安全意識の向上につながります。

次に、防犯活動とは、住民相互のコミュニケーションを活性化することです。地域の夏祭りや廃品回収、街の美化活動など、町内活動の中にもさまざまなコミュニケーションの場が組み込まれているのです。

一方、豊富な経験と多様な能力をもった団塊の世代が地域に戻ってまいりました。これからのまちづくりは、元気なお年寄りが大変貴重な存在となります。特に、地域防犯活動は日常的な取組であり、若者が留守の間に「地域を守ろう、子供たちを守ろう」という尊い志が、今後生きてくるものと確信しています。「わたしは、私にできること。あなたは、貴方にできること。子ども達に、愛をください。あなたの勇気と行動をください!」。ご清聴ありがとうございました。

メッセージ

- 「犯罪者に対抗する手段」とは?
 - ① 「防犯活動の日常化」⇒「見える形で、防犯活動を積み重ねる」
 - ② 「防犯環境の整備」⇒ハード及びソフトの充実
 - ③ 「迅速な犯罪情報の伝達」(エリアメール、ポスター等)

「わたしは、私にできること。
あなたは、貴方にできること。
子ども達に、愛をください。
あなたの勇気と行動をください!」

質疑応答

●質問 小学校5年生を対象として地域安全マップづくりを指導しておられるとの発表がありました。参加したお子さんについては、安全マップづくりの活動を通じて何か変化というものがありましたか。

○回答 子どもの反応の前に、ご父兄が非常に関心を持たれます。できれば、どんどん広げてもらいたいし、また毎年継続してやっていただきたいというのがご父兄の意見です。また、子どもも対象者が5年生ですが、だいたい百数十名を十数班に分けてやっています。まず子どもが一人で遊ぶということがなくなりました。登下校もだいたい集団です。また、公園などでも、小さな子が一人で遊んでいると上の子が声をかけて一緒に遊んでやるとか、孤立させないということも、子どもが理解できている。そういうことで、多少は効果があったのかなと思います。やはり、継続してやっていく必要があると感じています。